

平成 31 年度 一般入学試験（第Ⅲ期）試験問題

国 語

注意事項

1. 解答用紙にはマーク用と記述用があります。解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - ①氏名欄
氏名・フリガナを記入しなさい。
 - ②空欄
解答用紙（マーク用）「年月日欄」の右横の空欄に「国語」と記入しなさい。
 - ③番号欄
受験番号を左詰めで記入し、さらに解答用紙（マーク用）には番号欄の下のマーク欄にマークしなさい。
2. この冊子は、問題が 21 ページあります（空白 1 ページを含む）。
3. 試験中に印刷の不鮮明、落丁・乱丁あるいは解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出なさい。
4. 受験番号が正しくマークされていない場合、採点できないことがある。
5. 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。たとえば、

10

と表示のある問いに対して 3 と解答する場合は、(例) のようにマークしなさい。記述式問題は記述用解答用紙に記入しなさい。

(例)

解答 番号	解 答 記 入 欄
10	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

6. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

① 次の問に答えなさい。

問一 次の言葉の類義語をそれぞれ1～4の中から選びなさい。解答番号は、①は 、②は 、③

は

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| ① | 嚆矢 | 1 | 中途 | 2 | 終局 | 3 | 発端 | 4 | 結末 |
| ② | 許諾 | 1 | 了承 | 2 | 諾否 | 3 | 拒否 | 4 | 辞退 |
| ③ | 熟知 | 1 | 本懐 | 2 | 無明 | 3 | 未知 | 4 | 通曉 |

問二 次の言葉の対義語を、それぞれ1～4の中から選びなさい。解答番号は、①は 、②は 、③

は

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| ① | 精緻 | 1 | 粗雑 | 2 | 無知 | 3 | 綿密 | 4 | 巧妙 |
| ② | 明瞭 | 1 | 端的 | 2 | 曖昧 | 3 | 歴然 | 4 | 鮮明 |
| ③ | 大差 | 1 | 僅差 | 2 | 切磋 | 3 | 完封 | 4 | 雲泥 |

問三 次の文の中には、漢字が誤っている文がある。誤っている漢字を含む文の数を1～5の中から選びなさい。解答番号

は

① 海外で活躍する著名な研究者の特別講議を受ける。

- ② 悪の巢屈と呼ばれる裏町を歩いた。
- ③ プロサッカー選手の兄は、同級生たちの憧憬の的だった。
- ④ 事実を秘篤する。
- ⑤ 彼の最新曲は、年間ダウンロード数で新記録を樹率した。

- 1 1文
- 2 2文
- 3 3文
- 4 4文
- 5 5文

問四 次の四字熟語の意味を、それぞれ1～4の中から選びなさい。 解答番号は、①は 、②は 、③

は

① 情状酌量

- 1 情報に非常によく通じていて、計り知れないこと。
- 2 事情をよく考慮して、刑罰を軽くすること。
- 3 少ない情報にもとづいて、当て推量で物事を判断すること。
- 4 事情を聴く前に、何となく物事を進めること。

② 匹夫の勇

- 1 思慮分別なく、がむしゃらに事を進めたり、無茶な行動をしようとしたりするつまらない勇氣であること。
- 2 腹で考えていることをつつみ隠さず周囲の者に打ち明け、遠慮なく勇敢に振る舞うこと。
- 3 優れた人物が、自分自身の最大限の努力を払い物事に全力であたれば、叶わないことはないということ。
- 4 能力的にはごく平凡な者であったとしても、勇氣を振り絞れば、道は拓けるということ。

③ 背水之陣

- 1 意表を突いた戦術で、勢いよく攻め込むこと。
- 2 寝返った敵を味方につけ、自陣が勢いに乗ること。
- 3 退却する道を自ら断ち、捨て身の覚悟で戦うこと。
- 4 水さえも自軍の味方につけるかのように、幸運な展開の戦いとなること。

問五 次の文章の意味や慣用上の表現から考えて、空欄に入る最も適当な語を1～4の中から選びなさい。解答番号は、①

は 、②は 、③は 、④は 、⑤は

- ① 台風接近の際は、不要（ ）な外出は控えるべきである。
- 1 普及
 - 2 不朽
 - 3 不休
 - 4 不急

- ② 名前もない端役では、ベテラン俳優の彼には（ ）だろう。
- 1 力不足
 - 2 役不足
 - 3 役者不足
 - 4 認識不足

- ③ 先輩の失敗を（ ）とする。
- 1 雛型
 - 2 師表
 - 3 他山の石
 - 4 率先垂範

- ④ 投稿作については、審査員の（ ）のない感想や意見をきかせてほしい。
- 1 忌憚
 - 2 遜色
 - 3 覚悟
 - 4 脈絡

⑤ 中学生の頃から、楽器演奏において、彼は（ ）を放っていた。
1 委細 2 異彩 3 異才 4 偉才

二 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

司馬さんは歴史を通して、常に現代を見据えていた。かつての美しかった日本人の心、精一杯生きる人間の勇氣と気概を描きながら、Aを心から嘆いていた。

司馬さんの小説は、そのほとんどが時代の転換期、時代の胎動期における人間の生き方を描いたものである。緊張感のある歴史風景の中で、登場する人物達は、誰もが人間としての気概、誇りを持って、それこそ燃え尽きるまでに、真剣に生きている。どれほど困難な現実にも直面しようとも、決して逃げることなくその流れに立ち向かい、精一杯の力を尽くす。

司馬さんは結局、大きな時代のうねりの中で個人の果たし得る力というものを信じて、その可能性を証明するために小説を書いていたのだと思う。一人一人の人間の〈へ生〉こそが国を動かし歴史をつくってきた、この日本という国のありかたを心から愛し、愛するがゆえに、あケイコクを発し続けた。私が司馬さんに惹かれるのは、その憂国の言葉に決して完全な絶望がないところである。どれほど先の見えない暗闇に苦悩していても、決して希望を忘れず、その先に光を見ていた。日本と日本人を最後まで信じ続けた。私達は司馬さんの綴る言葉の裏にある、①その心に感動し、励まされる。作家司馬遼太郎は文字通り、二十世紀日本の知の巨人であった。

司馬遼太郎記念館は、この②稀有な作家の足跡を後世に伝える場である。

私は、この建築を単に故人の資料文献を保存するだけの資料館ではない、作家司馬遼太郎の心を、来館者が少しでも感じ、共有できるような場所にしたかった。B、ここでは司馬さんが生前に考え、執筆活動を続けた創造空間を、形こそ違えそのままに建築として現わすことを主題とした。

何より、人間が考えるための場所をつくりたかった。

記念館の全体は、司馬さんの自宅と、それに、リンセツして今回新たに計画した新館とで構成される。その新館の中心となるのが、特別展示室へ司馬遼太郎・もうひとつの書齋だ。天井高、十一メートルに及ぶ壁面の全てをシヨウカで覆い、そこに蔵書から自著本に至る書籍、自筆原稿や愛用品を収め、展示する。文字通り、司馬さんが生涯を通して、背負ってきた本で囲い込まれた空間である。

発想の原点は、計画にあたり見学させていただいた、司馬邸の書齋だった。そこで驚いたのは、原稿執筆の際に集められたという膨大な資料文献である。生前、司馬さんが何か新しい本を書かれる度に、神田の古本屋街から、ある特定のテーマに関する書籍類が^③忽然と姿を消したというイツワを耳にしたことがあったが、確かにその分量は私の想像などはるかに越えた凄まじいものだった。

「司馬さんの『坂の上の雲』や『菜の花の沖』に綴られた^④一語一句の重さの理由がここにあり」そう感じたとき、自然つくるべき空間のアイデアが頭に浮かんでいった。

うずたかく、層をなすシヨカで四周を囲われた空間は、まるで地下深くに居るかのようにはの暗い。その闇に差し込む光として、私はほんやりと外の光を映し出す白いスタンドグラスを考えた。スタンドグラスを構成するガラスは、^⑤一枚一枚全て大きさと表情が異なる。その不揃いなガラスは司馬さんが信じ続けた人間一人、一人の異なった人格と存在感の象徴であり、それらを通して差し込む微かな光は、司馬さんの夢と希望の象徴である。この光が、人々が作家の創造世界を追体験するための道標となれば、そう期待して計画を進めていった。

司馬さんは、ふつう庭木としてあまり使われないような雑木、道端に咲く野の花を愛したという。自邸の前庭には、その雑木が全く自然のままに、精一杯に生い茂っている。私にはそれが司馬さんの文学を理解する上での、^⑥非常に大切なことのように思われた。

新館の前面を覆うように植えられた植栽は、この司馬さんの愛した雑木の森の^おカクチョウである。これらが生い茂り、司馬さ

ん宅の前庭と一体となったときが、本当の意味での記念館の完成だと私は考えている。

(安藤忠雄『考える場所―司馬遼太郎記念館』)

問一 A にあてはまる最も適当な語句を、次の1～5の中から選びなさい。解答番号は

16

- 1 現代の精神の荒廃、公の秩序の崩壊
- 2 昔の人間の粗野な心、教養のなさ
- 3 現代に生きる人間の過信、規則の尊重
- 4 歴史的事実への無関心、現代文明の軽視
- 5 現代の文明の進歩、産業の衰退

問二 傍線①「その心」とはどのような心か。最も適当なものを、次の1～5の中から選びなさい。解答番号は

17

- 1 不安定な日本の将来を嘆きつつも、誰かがきつと何とかしてくれるだろうと頼りに思う心
- 2 どんなに困難な状況に陥ろうとも、日本人は必ず明るい未来を構築するだろうと信じる心
- 3 激動の歴史の中で翻弄され、夢を果たせずに終わった名もない人々に対するあたたかい同情の心
- 4 確固たる根拠はないものの、日本の文明がさらに発展することを、直感的に読みとった鋭い心
- 5 愛する日本が、自分の考える方向からずれて進んでいることについて、厳しく戒めようとする心

問三 傍線②「稀有な」とはどのような意味か。最も適当なものを、次の1～5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 威厳のある
- 2 前向きな
- 3 人気のある
- 4 横柄な
- 5 貴重な

問四 にあてはまる最も適当な接続詞を、次の1～5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 ただし
- 2 しかし
- 3 むしろ
- 4 あるいは
- 5 だから

問五 傍線③「忽然と」とはどのような意味か。最も適当なものを、次の1～5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 突然
- 2 偶然
- 3 巖然
- 4 整然
- 5 漫然

問六 傍線④に「一語一句の重さの理由がここにある」とあるが、「一語一句の重さの理由」はどこにあると筆者は考えているのか。

最も適当なものを、次の1～5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 司馬が、膨大な資料の全てを読破し、そこに描かれているどのような細かい話題でも、自身の作品の中に取り入れていたこと。
- 2 司馬が、執筆のために尋常ではない量の資料を参考にし、どんな作品も確固たる事実の裏付けを基盤として描いていたこと。
- 3 司馬の作品から感じられる情熱は、資料収集に打ち込んだ司馬の執念によって生み出されたものであること。
- 4 司馬にとって、膨大な資料を収集することよりも、むしろ小説を執筆することの方が、楽しい作業であったこと。
- 5 司馬は、小説を書くときよりも、評論を書くときに多くの資料を参考にし、有無を言わさぬ素晴らしい論を展開させていたこと。

問七 傍線⑤に「一枚一枚全て大きさと表情が異なる」とあるが、それはなぜか。最も適当な理由を、次の1～5の中から選びな

さい。解答番号は

- 1 地下深くに作られた書齋のような雰囲気を出すために、強い光が入りすぎないようなデザインにし、人々の心の中に、司馬に対する淡い思いを生じさせることを意図したから。
- 2 知の巨人とも呼ばれる司馬の強烈なイメージに負けない建造物を建てるためには、通常のガラスでは印象が弱すぎるため、できるだけ奇抜なデザインにしようと思ったから。
- 3 人間がそれぞれ異なる人格と存在感を持っていることを象徴し、司馬がそうした人間の存在の中に希望を見出そうとして作品を書いていたことを、訪れる人々に体験的に感じてほしいから。
- 4 司馬の抱いた夢と希望が、時と場合にに応じてさまざまな形をとったことを象徴的に表しており、多様な考え方を持っていた司馬の柔軟性から、人々に何かを学びとってほしいと考えたから。
- 5 ガラスから差し込む光を、司馬の偉大な足跡をたどるための道案内とみなし、多種多様な形を見せる光から、司馬の精神世界の深さを人々が感じ取り、生きる上での手本にしてほしかったから。

問八 傍線⑥に「非常に大切なことのように思われた」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを、次の1～5の中から選びな

さい。解答番号は

23

- 1 司馬の環境保護に対する意識の高さを表しており、その活動の多面性を浮き彫りにしていると思ったから。
- 2 朝咲いて夜にはしぼんでしまう草木のはかなさが、司馬の作品に書かれている主題と重なり合うと思ったから。
- 3 英雄や権力者ではない、普通の日本人の生命力を信じていた司馬の心に、相通じるところがあると思ったから。
- 4 人と同じであることを嫌った司馬の個性の強さを、率直に表していると思ったから。
- 5 どんなに尊敬される大作家になろうとも、常に初心を忘れまいと努力した司馬の潔い決意を表していると思ったから。

問九 文中で述べられている内容として、最も適当なものを、次の1～5の中から選びなさい。解答番号は

1 筆者は、司馬の思想の深さや重みと同じくらい、建築に対する自分の考えが深まらない限り、司馬遼太郎記念館が完成する日は永遠に来ないと考えている。

2 司馬遼太郎記念館には、司馬の書齋をそのまま再現した部屋が作られており、司馬の作品執筆の過程や手法について、詳しく知ることができる。

3 現代の日本人は、自分の力で困難を解決しようとする努力をすっかり忘れており、司馬は日本の将来をそのような軟弱な日本人に託すことに、不安を感じずにはいられなかった。

4 時代の転換期、胎動期において、国を支え、歴史を作っていたのは個人の力であり、その個人の力には大きな可能性があることを証明するために司馬は作品を書いた。

5 司馬は、歴史上の人物たちを、どんなに困難な状況に直面しようとも、常に前向きに立ち向かう強い人間として描くことで、自らの理想と関心が歴史の中にあることを読者に示そうとした。

問十 傍線あゝおにあたる漢字を、次の1～5の中からそれぞれ選びなさい。解答番号は、あは 、いは

うは 、えは 、おは

あ	ケイコク	1 啓	2 景	3 警	4 掲	5 契
い	リンセツ	1 隣	2 臨	3 倫	4 輪	5 隣
う	シヨカ	1 夏	2 架	3 課	4 科	5 荷
え	イツワ	1 遮	2 逝	3 迅	4 遂	5 逸
お	カクチョウ	1 較	2 覚	3 核	4 確	5 拡

空白ページ

三 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

二十一世紀最初の四半世紀、自動車産業では能力構築競争は続く可能性が高いと、スイソクされる。

第一に、自動車が「擦り合わせ型（統合型）」アーキテクチャ^{注1}のブランド指向製品であり続ける限り、それを作る生産システムもまた、統合、相互調整、作り込みなどを重視したものであり続けるだろう。その意味で、二十世紀後半の「統合型のもの造りシステム」を代表する「トヨタ的システム」あるいは「リーン生産方式^{注2}」の基本原則が持つ競争優位は、二十一世紀もしばらくは維持されるだろう。

第二に、電子調達や三次元CAD^{注3}などのデジタル情報技術の成果は急速に吸収されるが、それでも自動車におけるもの造りの基本原則は変わらないだろう。すなわち、製品開発においては「フロントローディング」（問題解決の前倒し）を含む早期・統合的な問題解決能力が鍵である。生産においては、開発部門が創出した製品設計情報を正確に淀みなく製品に転写する「作り込み能力」がポイントであり、生産現場での設計情報転写におけるムダを削減するトヨタ的な「統合型もの造りシステム」の優位は続く。

以上のような、もの造りのオペレーション面（開発・生産・購買）における、トヨタ的、統合型、あるいはリーン式のシステムが持つ競争優位性は、現在の擦り合わせ型の製品アーキテクチャが維持される限り、持続するだろう。むしろ、日本企業の問題は、そうした「もの造り能力」の優位性を最終損益に結びつける「戦略構想能力」の弱さであり、これこそが二十一世紀初頭における最大の課題である。

二十世紀最後の四半世紀、世界の自動車産業は、能力構築競争をもっとも熾烈^{しれつ}に展開する産業の一つであった。

自動車産業では、われわれ消費者にみえるところでの「a」レベルの競争^イのみならず、その水面下で「b」レベルの競争^レすなわち能力構築競争が国際規模で、延々と繰り広げられてきた。それに参加する企業は、生産性、製造品質、生産リードタイム^{注4}、開発リードタイムなどの地味な種目で相手に優ろうと競い合う。企業間の協調と紛争、すなわち提携ネットワーク

クと貿易摩擦は、能力構築競争をホカ^Bンする装置とみなせる。

また、^①日本企業のもの造りの能力構築は「創発的」な色彩が強く、それが日本企業の組織能力に対する他社の気づきと模倣を難しくしてきた。これに対し欧米企業は、そうした日本型の創発的な組織能力を概念化し^②純化する形で、能力再構築の努力をしてきた。

I 日本企業は、一時、「能力の過剰蓄積」という問題に直面し、これに対する修正を加えてきた。以上が、「能力構築競争」をキーワードとした、二十世紀終盤の自動車産業に関する、筆者の見解である。

能力構築競争は、ある意味で、地道で^Cグチヨクな競争である。そうした競争を、長期にわたり、しかも世界規模で、これほど生真面目にやってきた産業は、実はそれほど多くなかったであろう。いうまでもなく、すべての産業で、能力構築競争が産業競争力を牽引してきたわけではない。例えば、ある種の若いハイテク産業では、^③生き馬の目を抜く新技術開発競争や業界標準の獲得競争が決定的に重要であり、^bレベルの組織能力は二次であった。また、^④諸々の規制に縛られてきた戦後日本の多くの産業は、そもそもまともな競争を^aでも^bでもやってこなかった。さらに他の多くの産業では、^aレベルでは華やかな顧客獲得競争が展開されているが、^bレベルでの「裏方」の能力構築は、自動車ほどに厳しくは展開されてこなかった。

このようにみると、能力構築競争の本質を考える上で、やはり^④この時期の自動車産業は、格好の題材だったと思われる。しかも、その自動車産業が、戦後日本経済の「強さの象徴」であったということは、単なる偶然ではない。二十世紀後半の日本の自動車産業は、他国の自動車産業よりも、より早く、より厳しく、能力構築競争を展開してきたことよって、少なくとも、もの造りのパフォーマンス（^bの競争力）では、長く競争優位を保ってきたのである。

II、二十世紀後半の日本の「得意技」の一つは、この能力構築競争だったのである。

二十一世紀に入った日本の多くの産業にとって、この自己認識は、議論の出発点として重要である。むしろ、過去の得意技である「^Cグチヨクな能力構築競争」一辺倒で、二十一世紀のグローバルな競争を勝ち抜くことは難しいかもしれない。確かに「もの造り」領域での能力構築競争は、「戦略的な工夫のない、同じ土俵での横並び競争」という側面も持つ。一つ間違えば、「^⑤工場は

強いが会社は儲からない」という、戦後日本の製造企業の多くが抱えてきた弱点に直結する。二十一世紀の日本企業は、総じてもっとDセンメイな戦略構想力を持たねばならない。

しかしそれは、能力構築競争そのものの意義を^え否定することにはならない、過去の得意技に依存するだけでは今後は勝てないが、さりとて、過去の得意技を将来に活かす工夫なくしては、二十一世紀の展望は開けないのである。過去に^エ蓄積された能力を最大限に将来に活かすのは、^⑥古今の戦略論の基本である。「横並び競争」と^ヤ揶揄するのは簡単だが、横並び競争がツボにはまった時の底力を、われわれは決してみくびつてはいけない。

しかも、冒頭述べたように、実は日本の多くの産業において、能力構築競争は、過去においても不徹底だったのである。「日本では皆が能力構築競争を徹底的にやって皆が強くなった」というのは、^Eゲンソウである。例えば日本の家電・エレクトロニクス産業は、自動車と並び称される国際競争力の強い産業といわれてきたが、そうした分野でさえ、自動車分野の能力構築トップ企業（例えばトヨタ）からみれば、多くの場合「もの造り」の突き詰め方が不徹底だったといわざるをえない。つまり、わが国の多くの産業にとつて、二十一世紀はじめという時点においても、二十世紀後半の自動車産業における能力構築競争の歴史から学ぶものは多い。

二十一世紀の日本経済を考える上で、規制緩和も、中国など低コスト国へのさらなる国際展開も、アメリカ流の「グローバルスタンダード」^{注5}の習得も、^{注6}画期的イノベーション^{注6}も、新産業や新企業の^A創出も、それなりに重要だ。**III** 同時に、まず足下を眺め、日本にある「ベストプラクティス企業」（見習うべき優良企業）から徹底的に学ぶことは、すべての努力の出発点ではなからうか。「自動車の能力構築競争の歴史に学ぶ」ということは、そういうことである。

（藤本隆宏『能力構築競争』）

*設問上、文章の一部を変更している。

注1 アーキテクチャ …… 製品を構成する部品をどのように連結するかなどの基本構造。

注2 リーン生産方式 …… 製造工程におけるムダを排除することを目的として、製品および製造工程の全体にわたって費用を系統的に減らそうとする生産方式のこと。

注3 三次元CAD …… 立体の状態で設計することができる、コンピュータ援用設計 (Computer Aided Design) のこと。

注4 リードタイム …… 所要時間や調達期間のこと。生産リードタイムとは、製造命令が出てから製品が完成するまでの期間のこと。

注5 グローバルスタンダード …… 世界的に通用・普及・定着している標準や規格のこと。

注6 イノベーション …… 新製品の開発、新生産方式の導入、新組織の形成などによって、経済発展や景気循環がもたらされるとする概念。狭義には技術革新の意味で用いられることもある。

問一 傍線ア「創出」、イ「延々」、ウ「模倣」、エ「蓄積」の漢字の読みの組み合わせとしてもっとも適当なものを、次の1～5の

中から選びなさい。解答番号は 30

- | | | | | | | | | |
|---|---|----------|---|------|---|-----|---|-------|
| 1 | ア | つくりだ(した) | イ | だんだん | ウ | もよう | エ | ちよくせき |
| 2 | ア | そうしゅつ | イ | えんえん | ウ | もよう | エ | ちくせき |
| 3 | ア | そうで | イ | のびのび | ウ | もほう | エ | ちよくせき |
| 4 | ア | そうしゅつ | イ | えんえん | ウ | もほう | エ | ちくせき |
| 5 | ア | つくりだ(した) | イ | のびのび | ウ | もよう | エ | ちくづみ |

問二 傍線A「スイソク」、B「ホカン」、C「グチヨク」、D「センメイ」、E「ゲンソウ」にあてはまる漢字を、次の1～5の中からそれぞれ選びなさい。解答番号はAが 、Bが 、Cが 、Dが 、Eが

A	1	推測	2	垂足	3	推側	4	推足	5	垂測
B	1	補間	2	保管	3	補完	4	補管	5	保完
C	1	愚勅	2	愚痴	3	愚直	4	虞直	5	具直
D	1	鮮銘	2	線名	3	宣明	4	選命	5	鮮明
E	1	幻想	2	玄宗	3	現送	4	舷窓	5	弦奏

問三 傍線あ「統合」、い「優位」、う「偶然」、え「否定」の反対語の組み合わせとして最も適当なものを、次の1～5の中から選びなさい。解答番号は

1	あ	分解	い	低位	う	天然	え	固定
2	あ	分化	い	低位	う	必然	え	不定
3	あ	分裂	い	上位	う	天然	え	肯定
4	あ	分裂	い	劣位	う	自然	え	不定
5	あ	分化	い	劣位	う	必然	え	肯定

問四 問題文で述べられている「能力構築競争」とはどのようなことを指すのか。最も適当なものを、次の1～5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 顧客満足度の向上に必要な、顧客の心理を把握するための手法やシステム、能力などの組織能力を向上させ、他社より優位に立つこと。
- 2 顧客が直接認識できない生産性、生産リードタイム、設計品質などの、もの造り能力の維持・改善・構築で他社と優劣を競うこと。
- 3 思わぬ成功や失敗など、計画と偶然が渾然一体となった「変異」を踏まえ、グローバルスタンダードの獲得競争に勝ち抜くこと。
- 4 顧客が直接認識できる製品の価格、内容、納期などによって市場シェアを高め、顧客獲得競争に勝ち抜くこと。
- 5 市場シェアを高めるために、優秀な技術者を採用し、競争力・商品力などの新技術開発競争に勝ち抜くこと。

問五 と にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の1～5の中から選びなさい。解答

番号は

- | | | | | |
|---|---|----|---|----|
| 1 | a | 初期 | b | 後期 |
| 2 | a | 高価 | b | 安価 |
| 3 | a | 表層 | b | 深層 |
| 4 | a | 低層 | b | 高層 |
| 5 | a | 長期 | b | 短期 |

問六 傍線①「日本企業のもの造りの能力構築」の特色を説明する文として最も適当なものを、次の1～5の中から選びなさい。

解答番号は 39

- 1 大学との協同研究の偶発的な結果をもとに、もの造りの能力構築をしてきたこと。
- 2 天才的なひらめきを持つ技術者たちによる、もの造りの能力構築をしてきたこと。
- 3 他企業が持つ最先端の技術を導入することで、もの造りの能力構築をしてきたこと。
- 4 試行錯誤の末、当初計画とは異なった形で、もの造りの能力構築をしてきたこと。
- 5 創造力や発想力をもっとも重視した形での、もの造りの能力構築をしてきたこと。

問七 傍線②「純化」のここでの意味として最も適当なものを、次の1～5の中から選びなさい。 解答番号は 40

- 1 手厚い教えによって、ものの考え方を感化すること。
- 2 複雑で余分なものを取り除いて、単純にすること。
- 3 環境の変化に数週間から数ヶ月かけて適応していくこと。
- 4 純粹な気持ちで日常業務に取り組むこと。
- 5 純利益を上げるために、組織化すること。

問八 、、に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の1～5の中から選びなさい。

解答番号は

- | | | | | | | |
|---|---|------|----|------|-----|------|
| 1 | I | そこで | II | ならびに | III | ところで |
| 2 | I | そして | II | ならびに | III | だから |
| 3 | I | むしろ | II | また | III | でも |
| 4 | I | それゆえ | II | それに | III | しかも |
| 5 | I | さらに | II | つまり | III | しかし |

問九 傍線③「生き馬の目を抜く」の意味として最も適当なものを、次の1～5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 呼吸を押さえて、静かにしていること。
- 2 物事を長く続けられなくなる事。
- 3 他人を出し抜いて素早く利を得ること。
- 4 良いものを捨てて悪いものに換えること。
- 5 意気込みが非常に盛んなこと。

問十 傍線④「この時期の自動車産業は、格好の題材だったと思われる」の理由として最も適当なものを、次の1～5の中から選
びなさい。解答番号は

- 1 自動車産業は世界規模かつ長期間にわたり熾烈な競争をしてきたから。
- 2 自動車産業はどの先進国においても国家を象徴する基幹産業だから。
- 3 自動車産業は多様な技術の集積の結果として完成されているから。
- 4 自動車産業は先進国の国家予算を超えるような売上規模をもつから。
- 5 自動車産業は最先端の技術を取り込んで発展してきたから。

問十一 傍線⑤「工場は強いが会社は儲からない」という表現について、文中からそれを意味する事柄として最も適当な箇所を
30文字前後（句読点を含む）で抜き書きしなさい。解答は記述用解答用紙に

問十二 傍線⑥「古今の」の意味として最も適当なものを、次の1～5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 最先端の
- 2 学会で評価された
- 3 世界中で認められた
- 4 昔から今までの
- 5 権威のある

設問以上

